

コラム

《腰折れ文》二、

渡邊澄子（会員）

前泊を含め九日間の本協会企画の日中国交正常化四五周年北京市・甘肅省訪問旅行に参加させて頂いた。同行の皆さん、お世話になりました。この旅行は私にとってウォーキング・ツアーだった。私は著名な医師の健康診断を受けている。検査では異常なしが続いているが、毎度、せめて二十分歩く運動を毎日するようにと言われるが、面倒と忙しさから守ったことがない。石窟見学と遙かに見上げる頂上のお寺までの白塔山への石段登りは、五年分の運動となっただろう。石窟は、三度行ったが何度でも行きたい大同の見事な雲崗石窟に比べると孫以下で大回りの歩行距離に見合う価値ありかと呟いてしまった。おっと、失礼。お許しを。一番興味深かったのは麋鹿苑だった。世の中に

こんな動物のいることを初めて知って興味津々。確かに一見、鹿のようだが馬・牛・驢馬（それから何だったかメモした自分の字が読めない）などの混じっている動物なのだ。こんな動物がいてそれを見たくわくわく感を友人たちに吹聴するつもり。そうぞ、四日目、蘭州で街歩きをしていたら到る所に「冬虫夏草」の看板。漢方薬がメインの街らしい。遠い以前、「冬虫夏草」が万能薬と聞かされて物凄く高価だったのに思い切って買って帰ったが、結局三年後に捨てたことを思い出した。路線バスの後部や街のあちこちに自由、平和、愛国、平等、文化重厚、友善、公正、誠信、民主文明、創建国家、国家富強等々のスローガンが掲げられていた。これ厳守されてるの？大変ね、

と言ったらスローガンですと学生さんが笑った。

最期の訪問先国際放送局では前日に発言を封印されていたが、無視して発言してしまった。お相手は看板キャスターだそうだが、忙しく走り回りながら食事のとき、私と話したいと側にいらして、時間のないのが残念とあわただしくあれこれ話し、特に林京子については盛り上がり、北京に来ることがあったら是非連絡をしてほしい、ゆっくり話し合いたいと言ってくれたのは嬉しかった。

中国に計三年近くもいた間、食事には堪能していたのに、何故か今回は食いしん坊の私なのに料理に手が出ず、路傍で山と積まれて売られている最盛期の、日本と比べてべらぼうに安い西瓜（大の好物）ばかり食べて満足した。話題は尽きないが紙幅がない。品川駅で夕食用に駅弁を買って帰宅したのは七時半過ぎ。山のような新聞と郵便物にうんざり。翌日、疲労から緩慢な動作でこの山にアタックして

いたら、長崎放送局から三人が大きな機材を抱えて林京子取材にやって来た。宅配のケース未着だったので疲労の浮き出たスッピンで七時間もの取材に応じた。九日の長崎での放送を思うと鳥肌が立つ。

◆原稿・写真など大募集◆

会員の皆様から、原稿・写真などを幅広く募集いたします。

○「みんなの写真館」

表紙および裏表紙の写真や絵画などを募集します。写真についての短いコメントも付けてください。思い出の写真、珍しい写真、力作の写真、ペット自慢、お孫さん自慢、なんでもお待ちしています。

○「旅行記」「体験記」「書評」「詩」「小説」など

多様な原稿を募集いたします。

○編集部体制で「善隣」誌の編集に当たります

会員の皆様にご参加いただけるよう試みてまいります。どうぞ、原稿の長さ、書き方、原稿送付方法等、お気軽にご相談ください。事務局にお伝えいただければ、追って編集部からご連絡をさせていただきます。（編集部）